

公益財団法人 日本城郭協会

2018年度事業報告書

2019年3月31日

1、「続日本100名城スタンプラリー」4月6日開始

2017年3月、当協会創立50周年記念事業として「続日本100名城」を選定、4月に発表した。が、「続日本100名城スタンプラリー」について多くの要望が寄せられた。これに応えるべくスタンプデザインを含めたスタンプ製作や各城のスタンプの設置場所調整などを急ぎ、2018年4月6日（城の日）に正式にスタンプラリーを開始した。

2、日本城郭協会・花王・共同活動「城のトイレ衛生環境向上活動」

当協会は花王グループ・カスタマーズマーケティングと共に「城のトイレ衛生環境向上活動」を2018年4月の弘前城を皮切りに2019年3月までに備中松山城、会津若松城、竹田城、高松城、松江城、島原城 など全国7城で開催した。

具体的には各城でトイレの清掃講習会の実施やキャンペーン活動を行った。

3、「お城EXPO・2018」の開催

2016年12月に初めて開催し評価を得た「お城EXPO」だが、2018年も「お城EXPO・2018」として12月に横浜パシフィコで3日間にわたり開催した。

主催4者「(公財)日本城郭協会・(株)ムラヤマ・(株)東北新社・

(株)パンフィコ横浜」による実行委員会が実施したが、期間中

2万人を超える城郭ファンが入場、好評だった。

4、「日本100名城スタンプラリー強化」及び「日本100名城・城カードの監修」

当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」は

ますます評価が高く、100名城登城達成者は2019年3月末で

2800人を超えた。

また「日本100名城」への関心をたかめるとともに「スタンプラリー

事業」を補完する企画である「日本100名城・城カード」は

(株)ムラヤマが発行、協会は監修協力をすることでスタートした。

5、「第17回親子名城見学会・城の自由研究コンテストを強化」

第17回の「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は

児童・保護者さらに教育関係者からの評価も高く、大きな教育的成果を

上げた。

具体的には「名城見学会」では地域のバランスに配慮し東北、関東、北陸、

中国、九州から開催する城を選び、白石城(宮城県)川越城(埼玉

県)福岡城(福岡県)で実施した。

なお当初予定した江戸城(東京都)津山城(岡山県)は台風のため中止し

「城の自由研究コンテスト」は2017年度に新設した団体賞（学校賞）を含め、学校や応募者に向けてのPRをさらに強化した結果、応募者数は前年より増加、406点でした。この中から11月の最終審査会で文部科学大臣賞をはじめ各賞がえられ、2019年1月14日東京・私学会館で表彰式を行った。

6、「日本城郭検定の強化・充実」

日本城郭検定は本年も2回開催した。6月には第12回検定、11月には第13回検定を全国5会場で実施、延べ約3500人のファンが挑戦した。

7、「熊本城復興義援金などの熊本城復興支援事業を継続」

熊本城復興支援のため2016年度に新設した「熊本城復興義援金」は2018年度も継続し様々な場面で幅広く寄付金を募った結果、総額474、455円の寄付金が寄せられ、2019年3月29日熊本市の「熊本城災害復旧支援金口座」に全額振り込んだ。

8、城郭文化振興のための「城郭講座・城郭探訪」の開催

各都道府県や各市の生涯学習部門から「城郭講座」の依頼が最近多くなっているが、これらの要望には積極的に対応した。

また「城郭探訪イベント」を本佐倉城、諏訪原城、駿府城で開催し、会員や城郭ファンの要望に応えた。

9、「学術委員会の活動強化及び学術委員の拡充」

学術委員会の活動を強化した。まず「お城EXPO」の講演企画にも積極的

に関与すると共に「日本城郭検定」の問題作成を主導、検定問題の充実を図った。また当協会の公認サイト「城びと」へ協力を強化したほか、「城郭講座・城郭セミナー」開催など積極的に対応した。

また新たに学術委員として城郭研究者や各城の学芸員に委嘱した

10、「テレビ・新聞・出版物への監修・助言の体制強化」

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応した。また一般の人々からの質問にもきめ細かく回答して感謝されたが、データの整備などの充実を図った。

11、「会報・ホームページの一層の充実および会員増強への取り組み強化」

会報の増ページは会員から評価を得たが、会員の寄稿欄の一層の充実を図った。また多くの会員からの協力に応える意味でも会員が参加できる事業の開催や会員相互の懇親と情報交換など会員サービス強化に努めると共に会員増強に取り組んだ。

またホームページの内容、運営方法の改善に努め、魅力的で利用しやすいホームページに一新した。

具体的にはきめ細かい情報、多彩な城郭情報を提供するだけでなく、広報協力員の協力を得て最新情報のアップを心掛けた。